

大槻憲四郎先生からのコメント

1. PDF ファイル“◎東北地滑り”に示されているように、一般に奥羽山脈は地滑り多発地帯である。それには2つの理由がある。第一の理由は、約 250 万年前以降、東北日本は東西に圧縮され、奥羽山脈は隆起を続けていて、地形傾斜が絶えず増加していることである。第二の理由は、約 1,500 前の黒色泥岩など、地滑りを起こしやすい地層が分布していることである。
2. 送って頂いた図「宮城山形北部風力発電計画地と、過去に地すべりが発生した箇所の照合」から分かるように、この該当地域には無数の地滑り地形が発達していて、いわば地滑りの“巣”である。この地滑りの多くは、上記の約 1,500 万年前の黒色泥岩の分布域にある（PDF ファイル“◎加美地質図”で紫系統の色で塗られた部分）。この図に描かれた風車設置計画ラインの少なからぬ部分が地滑り地形の上か、その近接部に位置している。描かれている地滑り地形は過去に発生した地滑りによるものだが、地滑りは一般に繰り返し活動する傾向があるので、地滑り地形の上に風車を設置するのは危険である。地滑りの最上部には“主滑落崖”と称される急崖が伴われるのが一般的で、将来、この崖は斜面情報に進展拡張する可能性が高い。したがって、主滑落崖の近接部も風車設置には不適である。
3. 宮城西部の風車設置計画ラインと地滑りの分布を PDF ファイル“宮城西部風車+地滑り”に示した。地滑りに関連した危険性は、上の2で述べたこととほぼ同様である。とくに風車設置に危険を伴う箇所を緑の楕円で囲ってある。

付記1 風車の設置に関しては、地滑り地形を回避するように計画するのが常識である。風車設置ラインを見る限り、風力発電の業者は地滑り地形を認識して引いたとは思えない。

付記2 地滑り地形の詳細を見る場合に必要になると思われるので、5 万分の 1 の地形図「薬菜山」と「鳴子」の上に書かれた地滑り分布図の JPG ファイルを用意しておいた。

付記3

・5 万分の 1 地質図：国土交通省による「土地分類基本調査」の「表層地質図」の PDF ファイルは以下で見ることができる。

<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/tochimizu/F3/data/G/0418G.jpg>

注：なお、送って頂いた図面「宮城山形北部風力発電計画地の表層地質」は古いデータを使っているようです。その上、岩質の説明が大変不適當です。

・5 万分の 1 地すべり地形分布図：防災科学技術研究所による「薬菜山」の PDF ファイルは

https://dil-opac.bosai.go.jp/publication/nied_tech_note/landslidemap/shared/pdfview/series05/pdf5740/005.pdf

で見ることができます。

同 「鳴子」は

https://dil-opac.bosai.go.jp/publication/nied_tech_note/landslidemap/shared/pdfview/series01/pdf5840/008.pdf

で見ることができます。